

飲食店等における新型コロナウイルスの市中感染拡大の防止策 に関する調査研究を開始

～ マスク・手指消毒・喫煙行動・換気に着目した、新しいコロナ対策の提言へ～

概要

順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学の谷川武教授、和田裕雄先任准教授、遠藤源樹准教授らのグループは、飲食店等における新型コロナウイルスの市中感染拡大の防止策に関する調査研究を開始します。

本調査研究では、(1)研究の前段階として、中央区銀座エリアにおける飲食店等の現地視察及びヒアリング調査を実施し、明らかになった現状の課題に基づく、4つの対策要素(マスク、喫煙行動、手指消毒、換気)(図1)に着目した新しい「飲食店等における新型コロナウイルス対策(仮称)」(①食後の談笑時にはマスクを着用、②人前で喫煙しない、③手指消毒を頻度高く行う、④適切な方法で換気を行う)の提言、(2)飲食店等関連企業、自治体との産学官連携による検証を行い、「飲食店等における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン(仮称)」の策定を目指します。

本研究調査のポイント

- 新型コロナウイルス対策の4要素は、マスク、新しい喫煙行動、手指消毒、換気
- 現状、十分な対策ができていない飲食店等が非常に多く、早急に適切なガイドラインを策定することが必要
- 飲食店等関連企業、自治体との産学官連携による実証研究
- 「飲食店等における新型コロナウイルス対策(仮称)」及び「飲食店等における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン(仮称)」の策定・提言を目指す

背景

7月に入り、新型コロナウイルス感染症の感染者数が緊急事態宣言解除後最多を更新するなど、第2波への懸念が強まっている中、感染拡大のメカニズムを明らかにすることは喫緊の課題となっています。また、新型コロナウイルス感染症において想定される感染経路として、WHOが会話や呼気等を介する空気感染の可能性を認めたことから、感染対策について改めて見直す必要が出てきました。

そこで研究グループは、マスク着用が困難な飲食時における感染に着目し、飲食店における新型コロナウイルス対策についてヒアリングを実施したところ、緊急事態宣言解除後の開店にあたり、標準化された適切なガイドラインがなく、何を指標にどのような感染対策を実施すれば良いのかわからない等の要望が多数あることがわかりました。無症状感染者を介する市中感染を減らすためにも、現地調査による飲食・喫煙等行動の現状分析を行い、飲食店等の実情に即した「飲食店等における新型コロナウイルス対策(仮称)」について策定した上で、飲食店等関連企業、自治体と連携し、継続的な実証研究を進めることを計画しました。

内容

研究グループは、中央区銀座エリアにおいて、クラブ、キャバクラ、クラブディスコ等のいわゆる「夜の街」関連の店、また、レストランやバー等の一般の飲食店について、現地調査を実施しました。その結果、調査を行った銀座エリアの飲食店等において、①手指消毒は入口での消毒にとどまること、②飲食・喫煙行動時に客がマスクを外したままの状態で長時間過ごしているケースが多数見られました。また、「夜の街」関連の店では、店の外から店内が見えないようにすることを定める風営法の関係で窓やドアを開放することが難しいことから、換気が非常に悪いだけでなく、適切な換気そのものが行いづらい状況にあることがわかりました。

研究グループは、無症状感染者がマスクを外した状態で飲食・喫煙行動をとった場合、「会話」、「呼気」、「タバコの煙(呼出煙)」を介し、新型コロナウイルスの空気感染が発生する可能性について仮説を立てました(表1)。その場合、分煙化されていない「夜の街」関連の店のみならず、分煙化が進んでいるとされるレストランにおいても喫煙エリアにおいて人同士の距離が近い状態での喫煙行動による空気感染リスクが非常に高くなることが想定されました。

そこで研究グループは、新型コロナウイルス感染対策のための飲食・喫煙の新しい行動様式として、「食後の談笑時にはマスクをすること」、「喫煙者は換気の良い場所において一人で喫煙すること」を提言します。飲食店等の業態により新型コロナウイルス感染リスクの度合いは異なりますが、「談笑時のマスク着用」と「新しい喫煙行動」は非常に重要な対策要素となります。加えて、研究グループは店内で「頻度高く手指消毒すること」、「適切な方法で換気を行うこと」を提言します。

今後の調査研究で、今回提言した4要素、①マスク、②新しい喫煙行動、③手指消毒、④換気について、それぞれどのような対策が有効であるかを検証します(図1)。さらに、現地調査で得られた課題を整理し作成した「飲食店等における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン(仮称)」(表1)について、飲食店等と協力し有効性を検証します。

図1: 飲食店等における飲食・喫煙行動に伴う新型コロナウイルス感染リスク対策の4要素



表1: 飲食店等における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン(仮称)

| 認定レベル | 客 | 飲食店等 | |
|----------|--|--|---|
| | | 従業員 | 店の設備・その他 |
| ダイヤモンド認定 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 状況に応じてN95マスク(*)を適切に装着 * 現在品薄、安定供給された際に検討 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 状況に応じてN95マスク(*)を適切に装着 * 現在品薄、安定供給された際に検討 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 適切に空気感染を防止可能な換気システムの導入 |
| プラチナ認定 | | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 従業員全員が普段から「3密」を避け感染リスクが低くなるような生活を心がけている | <ul style="list-style-type: none"> ◆ シルバーおよびゴールド認定基準に沿ったリスク対策が実施され、集団感染を防ぐための「3密」を避ける、基本的な環境が整備されている |
| ゴールド認定 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 従業員による協力のもと、定期的に手指消毒を行う ◆ 完璧に、新しい常識に沿ったマスク着用ルール、喫煙ルールが守られている | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 客に、定期的に頻度の高い手指消毒をお願いする ◆ 従業員全員が、マスク/フェースシールド、手指消毒、新常識に沿った喫煙行動、換気について正しい知識を知っている | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新しい常識に沿った喫煙対策の実施(店内禁煙、十分な換気条件での個人喫煙所の設置など) ◆ 店内各所(テーブル等)に消毒アルコールを設置 ◆ 店が混雑しすぎない(「密」にならない)よう、入店者数をコントロール ◆ 店舗条件に合わせた適切な換気対策の実施 |
| シルバー認定 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 入店時の手指アルコール消毒 ◆ 食後の談笑時にマスクをする ◆ 新しい常識に沿った喫煙行動(十分な換気条件での個人喫煙) | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 入店時、客に、体調を質問し、非接触型機器で体温測定をする ◆ 客に、適切に、マスク着用や手指消毒、新常識に沿った喫煙の方法についてお願いする ◆ 従業員全員が、適切に店内でマスクもしくはフェースガードをつけ、手指消毒を行う ◆ 定期的に部屋の換気を行う(窓やドアの開放など) | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 入口や店内へのポスター掲示・健康確認のお願い(発熱や咳等の体調不良時に入店を断る場合がある旨を表記) ◆ 定期的な手指消毒のお願い ◆ 食後の談笑時のマスクのお願い ◆ 新常識に沿った喫煙方法のお願い ◆ 店内に消毒アルコールを設置 ◆ 適切なソーシャルディスタンスをとった店内レイアウト(適切なパーティションの設置、席の配置) |

< 研究内容に関するお問い合わせ先 >

順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学
 前任准教授 和田 裕雄(わだ ひろお)
 TEL:03-3813-3111(代表)(内線3535)
 E-mail: sec-koshueisei@juntendo.ac.jp

< 取材に関するお問い合わせ先 >

順天堂大学 総務局 総務部 文書・広報課
 担当: 松浦、長嶋
 TEL: 03-5802-1006 FAX: 03-3814-9100
 E-mail: pr@juntendo.ac.jp
 https://www.juntendo.ac.jp